

# グループワークの改善案

平成 24 年 5 月 16 日

## 1. 現状維持

## 2. グループディスカッション

参加者のほぼ全員が議論に参加できる。

- ▶ 進行役・記録係 各 1 名
  - ▶ ディスカッショングループ×3, 各グループは 6~7 名
  - ▶ ランダムに役割・グループを参加者に振り分ける
- 進行の流れ  
進行役からディスカッションテーマの提示（事前もしくは当日）  
各グループでディスカッション（30 分程度）  
各グループの結論を代表者が全員の前で発表  
参加者から発表グループへの質疑  
終了

- その他  
社会経済の理解, コミュニケーション能力の向上および就活能力の向上というプログラムの目的を達するため, ディスカッションテーマのタイプを隔週で変更する. 例えば, 第 1 週目はこれまでよりも多くの知識・背景の理解・考察が必要なテーマを与え (例えば, 少子高齢化の解消など), 各自で 1 週間調べた上で議論し, 時間内でグループとしての結論を出す. 第 2 週目は実際の就活で行われるように, ディスカッション寸前に進行役がテーマを提示し, その場で議論をスタートさせる.

## 3. ディベート

基本的なスタイルは現行のまま維持し, ディベート参加者以外の聴衆の発言を可能にするため, 賛成・反対各グループの反駁の後に聴衆からの質疑を加える. 聴衆からの質疑への各グループの応答もジャッジの対象として評価する.

- ▶ 進行役・記録係 各 1 名
- ▶ 賛成派・反対派 各 4 名ずつ
- ▶ ジャッジ 2 名
- ▶ 聴衆
- ▶ ランダムに各役割を参加者に振り分ける

- 進行の流れ  
進行役からディベートテーマの提示（事前もしくは当日）  
賛成派・反対派に分かれて議論  
立論→質疑→反駁→聴衆からの質疑→ジャッジ  
終了

- その他  
テーマの与え方は, ディスカッション同様に, 事前の提示と当日の提示を隔週で行うなどして工夫する.

## 4. その他検討すべき事柄

- 議論の進行を迅速にすべき.
- 当日の全体進行役が必要では? (先生方がおられなくても進行できるように)
- 週によってやることを変えることも出来る (例えば, ディスカッション→ディベート→パネルディスカッション→面接・・・) ので, 今後のプログラムの進め方について決定する場が必要では?